

「たゆまざる あゆみおそろし かたつむり」

小学校教頭 津田 克彦



津田教頭

百十余年の伝統ある追手門学院小学校の教頭に就任ということで、その責任の重さをひしひしと感じると同時に、これからの新しい追手門学院小学校の発展に少しでも寄与できますこと光栄に感じております。伊勢田校長や瀬崎前教頭の指導を仰ぎながら、微力ではありますが全力をあげて取り組む覚悟でございます。どうかご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、私は本校の教壇に立ってから今年で31年目を迎えています。就任1年目は89期生の3年生を担当しました。そのころは今のようになんて新任教諭の研修制度もなく、始業式の日いきなり学級名簿を渡され林校長先生に教室まで案内されたことを覚えています。そんな就任初日ですから子ども達から「先生下校班はどうするの?」と聞かれ「適当に友達と帰りなさい。」と言ったほどです。その様子を影から見ておられた保護者の方は思わずこけてしまったそうです。その話は1年後にPTA学

級委員会のお母様から笑い話として聞かれました。その時の同学年の先生は主任が牛屋先生で、もう一人が福井先生でした。最初の学年懇談時に「牛屋先生には経験」「福井先生には筆算」があるとお話されました。では、私には...? 私が両先生より優れているところはと考えたとき「こども達との時間だ!」と思ったのです。とにかく子ども達と一緒に過ごそう。授業時でも、遊び時間でも。学校はもちろん、夏休み等に子ども達といろんなところに遊びに行行った思い出があります。そして31年経った今もその気持ちが私の基盤となっています。「私にできることは時間をかけること。」「仕事は早くはないが時間をかければできる。仕事への時間をおしまない」北村西望の「たゆまざるあゆみおそろしかたつむり」この言葉は私の好きな言葉であり、今の心境です。

そしてもう一つ常に頭に置いているドイツの諺があります。それは「流れ

る水は清く、溜まった水は腐る」です。教頭の職務は「学校長の補佐」はもちろんですが、「教職員のパイプであり、潤滑油である」と考えています。本校は本当に多忙であり、先生方はよく働いています。その個人個人の頑張りをも一つにつないでいき、そのパワーが何倍にもなるようにしていきたいと思っています。

そして、私の使命のもう一つに「卒業生との絆作り」があると考えています。百十余年という歴史はそれだけ多くの卒業生を輩出しているということです。これは本校の大切な財産なのです。卒業生の動向を調査し、卒業生の支援にも取り組んでいきたいと考えています。それには山桜会との協力が欠かせません。海に散っていった鮭がやがて元の川に戻るように、多くの卒業生が戻ってくる母なる学校になることが我々の喜びであり、これからも本校のもっとも大きな支えとなるように思います。

ジュニア部会

総務委員会副委員長・ジュニア部会

馬場 耕一郎

山桜会の歴史にまた、新たな1ページが追加されました。それは、今回の改選を機にジュニア部会が誕生したことです。誕生の背景には、今回の役員改選があります。前任期までの役員構成は、偕行社世代から40代以上が大勢を占めておりましたが、今期に10代・20代の役員が多く誕生しました。その中には現役大学生も多数含まれており、次世代を担う役員の育成が課題となりました。人材を育成することは、容易いことでは無く、時間がかかるものであります。4年の任期の中でどこまで育つか未知数ですが、とても前向きであり、多感な人材に集まってもらうことができました。活動内容としては、会の運営を通して山桜会の活動内容や流れを覚えてもらうことに始まります。年に1度しか無い行事が大半を占めているので、直ぐには把握することはできませんが、先般行われた総会では、受付業務や車の誘導、そして送迎バスの運行を担当しました。慣れない作業の中で不手際もあったかと思いますが、一生懸命に対応する姿は、これからの山桜会に力強いものとなると感じました。多くの会員の方や先生方と接する内容だったので、会員の方も若い役員をご覧になられたのではないのでしょうか。ジュニア部会として期間内に何かを作らないといけないという制限が無いだけに、活動内容も一から作り上げていく必要があります。部会を開催する

中で、様々な活動案が委員の方々から出されました。今は真っ白いキャンバスに自分たちの思いをどんどんぶつけ合い、議論し、少しずつ形が見えだしてきている所です。まだ企画段階で詳細を述べるのができないのが残念ですが、企画の一部には、学生の方をサポートする案・山桜会会員を対象とするレクリエーション案・そして自分たちが成長するプログラムなどどれも斬新なアイデアであり、山桜会と会員そして母校の橋渡しには大変重要なものが多く含まれておりました。4年という限られた任期の中で一つでも形に出来、自信につながればと考えております。そして、先の話にはなりますが、ジュニア部会の活動を通して多くの会員の方、現役の学生の方々と交流を深め次の改選において有望な人材を発掘することができればと考えています。木に例えるなら、他の委員会が幹であり、葉であり、花であり、実であるならば、ジュニア部会は人材を提供する根になることができれば、山桜会の体制も磐石になるのではないのでしょうか。これからのジュニア部会を楽しみにして下さい。

